

今後の市営プールの財政面の見通し

公共マネジメント推進課により策定中の『今後の公共施設のあり方の方針』では、体育施設は20年後～30年後に再整備が検討されているため、一例として今後20年間の市営プールに係る費用効果を以下の5パターンについて比較しました。

①両方のプールをこのまま工事を行わず現状維持した場合

[メリット]

- ・高額な大規模改修費による不採算リスクが回避される。
- ・現状のニーズに即した施設サービスを市民に継続的に提供できる。

[デメリット]

- ・経年劣化による毎年の修繕費が最も高額となる。
- ・配管や躯体の経年劣化による破損リスクが高い。
- ・既存施設に留まるため、利用者数増加の期待値が低い。

②運動公園プールを大規模改修し、中央公園プールを廃止した場合

[メリット]

- ・経年劣化による毎年の修繕費が最も低額となる。
- ・市民ニーズに対応した改修を行うことで、新たな施設サービスを市民に提供できる。
- ・設備投資による利用者数の増加の期待値が高い。
- ・配管や躯体の経年劣化による破損リスクが低下する。
- ・プール入場料引き上げの合理的説明材料となる。

[デメリット]

- ・高額な大規模改修費による不採算リスクが発生する。
- ・中央公園プールの大規模改修と比較すると、プール面積が大きい分、材料費と改修工事費が高額となる。
- ・施設廃止に伴う解体工事費が発生する。(別表からは除外しています。)

③中央公園プールを大規模改修し、運動公園プールを廃止した場合

[メリット]

- ・経年劣化による毎年の修繕費が最も低額となる。
- ・市民ニーズに対応した改修を行うことで、新たな施設サービスを市民に提供できる。
- ・設備投資による利用者数の増加の期待値が高い。
- ・配管や躯体の経年劣化による破損リスクが低下する。
- ・プール入場料引き上げの合理的説明材料となる。
- ・運動公園プールの大規模改修と比較すると、プール面積が小さい分、材料費と改修工事費が低額となる。

[デメリット]

- ・高額な大規模改修費による不採算リスクが発生する。
- ・運動公園プールよりも施設面積が小さいため、入場者数の上限が低い。
- ・施設廃止に伴う解体工事費が発生する。(別表からは除外しています。)

④運動公園プールを再塗装し、中央公園プールを廃止した場合

[メリット]

- ・大規模改修と比較すると、比較的安価な改修費で施工できる。
- ・20年間の改修・修繕費用の累積コストが低くなる。
- ・経年劣化による毎年の修繕費を一定期間削減できる。

[デメリット]

- ・改修費による不採算リスクが発生する。
- ・外観や設備面の変化が少ないため、リニューアルの恩恵が少ないため利用者増加の期待値が低い。
- ・配管や躯体の経年劣化による破損リスクは、①と同程度に高い。
- ・中央公園プールの改修と比較すると、プール面積が大きい分、改修工事費が高額となる。
- ・施設廃止に伴う解体工事費が発生する。(別表からは除外しています。)

⑤中央公園プールを再塗装し、運動公園プールを廃止した場合

[メリット]

- ・大規模改修と比較すると、比較的安価な改修費で施工できる。
- ・20年間の改修・修繕費用の累積コストが低くなる。
- ・経年劣化による毎年の修繕費を一定期間削減できる。
- ・運動公園プールの改修と比較すると、プール面積が大きい分、改修工事費が低額となる。

[デメリット]

- ・改修費による不採算リスクが発生する。
- ・外観や設備面の変化が少ないため、リニューアルの恩恵が少ないため利用者増加の期待値が低い。
- ・配管や躯体の経年劣化による破損リスクは、①と同程度に高い。
- ・施設廃止に伴う解体工事費が発生する。(別表からは除外しています。)
- ・運動公園プールよりも施設面積が小さいため、入場者数の上限が低い。

添付資料

- ・プールリニューアル経費対効果概算、同グラフ
- ・運動公園プール経費一覧表 (H28～H30)
- ・中央公園プール経費一覧表 (H28～H30)
- ・改修提案 (運動・中央公園プール共通)
- ・各工事の概算金額 (運動公園)
- ・50mプールリニューアルの完成予想図 (運動公園)
- ・各工事の概算金額 (中央公園)
- ・50mプールリニューアルの完成予想図 (中央公園)